

コラム① 西宮市の豊かな自然の中での健やかな育ち

自然とのふれあいは、子どもにとって豊かな経験の場であり、幼児教育・保育においても欠かせない大切な体験です。

園外保育、特に自然の中に出かけると、子どもは、そこにあるものを使って、友達と遊ぶために、自ら積極的に創意工夫やコミュニケーションを行います。そして、美しい花をじっと眺めたり、虫の鳴き声に耳を澄ましたり、浜辺を走り回って砂まみれになったり、自分で収穫した食べ物を味わったりといった自然体験は、子どもの五感を刺激し、鍛えることになります。つまり、自然の中での遊びや体験は、生きていく上で必要な技術や感覚を養うための絶好の機会なのです。

また、普段から園内の身近な自然にふれることも、日常と自然との関わり合いに気づき、それらを関連づけて理解するうえで、とても大切な体験です。そのため、さまざまな機会を活かし、それぞれの園内での自然とのふれあいに取り組むことも重要です。

西宮市は、阪神地域という日本有数の都市部に位置しているとともに、甲山など六甲山系の緑の山並み、武庫川・夙川などの美しい河川、大阪湾に残された貴重な甲子園浜・香櫨園浜をはじめとした豊かな自然が残っています。これらの豊かな自然環境を次世代へ引き継いでいくことなどを目指して、平成15年（2003年）12月14日に全国で初めて環境学習都市宣言を行い、子どもが安全に自然や生き物とふれあい、体感することができるよう、環境学習施設や公園の整備などを進めてきました。

引き続き、園内外で子どもが自然とふれあう機会をつくることができるよう、環境への取り組みを実践している関係者、関係部署などが連携を図り、ビオトープ※の設置や園庭での栽培活動、環境学習プログラムの実施などの支援を進めていきます。

※ 生物を意味するビオと場所を意味するトープを合成したドイツ語で、生き物の生息空間を意味している。

コラム② 数値化できない子どもの力（非認知能力）

幼児教育・保育の実施においては、知識やIQといった認知能力だけではなく、根気強さ、注意深さ、意欲などの「非認知能力※」の育成が重要な役割を果たしています。

※ テストで測ったり数値化したりできる学力を指す「認知能力」以外のもの。自律性や自己肯定感、他者への配慮、コミュニケーション能力などが含まれており、近年では「生きる力」とも言われている。

非認知能力がよく伸びるのは乳幼児期から10歳ぐらいの頃で、特に幼児期が大切といわれています。また、子どもが夢中になって遊べるように見守り、子どもが自らやりたいことを決めて、とことん遊べる時間が多いほど、非認知能力は向上するとされています。そのため、子どもが夢中になって遊べる環境を整え、見守り、支えることで、子どもが、「愛されている」「見守られている」などと感じながら、やりたいことに挑戦していけるようにしていくことが大切です。

保育者や保護者に愛情を持って支えられながら、子どもが夢中になってとことん遊べることで、非認知能力が身につき、高まっていくことも意識しながら、子どもと向き合っていきましょう。



⑤ ビジョンの実現に向けて

このビジョンを実現し、発展させていくためには、西宮市のすべての施設で安心して幼児教育・保育が受けられる環境を整えていくことが必要となります。

そのため、市と各施設や関係団体などが緊密に連携・協力しながら、

- ・「保育者が学び続け、成長していける場の提供」
- ・「施設の枠を超えた、保育者相互の高め合い」
- ・「乳幼児期だけでなく、就学以降も意識したサポート」
- ・「保護者支援と、地域に根差した取り組みの推進」

などを、幼稚園・保育所・認定こども園などの施設種別や公立・私立などの設置主体にかかわらず、共に進めていきます。

（１）保育者が学び続け、成長していける場の提供

保育者は、子どもの育ちを支え、子どもに大きな影響を与える重要な役割を担っていることから、幼児教育・保育の質の向上には、保育者が、知識を深め、ノウハウを蓄積、継承し、経験豊かな保育者へ成長していくことが大切です。そのため保育者は、OJT（日々の保育やスーパーバイズなどを通した学び）、Off-JT（園内研修・外部の研修などへの参加を通した学び）、SDS（Self Development System／自己研鑽による学び）をうまく組み合わせ、常に資質・能力や技術を磨き、その専門性を向上させていくとともに、保育に関する「計画」、「実践」、「振り返り」といったサイクルを重ねて、保育者同士の理解と共感を深め、保育の質を高めていけるよう取り組みます。

また、保育者がキャリアパス※に必要なノウハウを習得できるよう、西宮市が主催する研修について、その実施体制や研修体制、受講方法について整理し、幅広い保育者が研修を受講しやすい環境づくりを行います。さらに、すべての保育者が同じ意識を持ち、保育にあたることができるよう、保育者同士が交流し、子どもの育ちについて意見を交わし、お互いを高めあえる場づくりに取り組みます。

※ 経歴や役職を意味する「キャリア」を積んでいくための経験やスキルを身につける過程・道筋のこと。

（２）施設の枠を超えた保育者相互の高め合い

市内の幼稚園・保育所・認定こども園などは、それぞれに特色のあるカリキュラム、マニュアル、教材、研究成果や豊富なノウハウを有しており、これらは西宮市の幼児教育・保育を支える貴重な財産です。また、公開保育は、保育者のスキルを高める貴重な機会です。このようなことから、これらを互いに共有し、参考にできるよう、市内の施設それぞれが、施設の枠を超えた保育の公開・情報共有に取り組みます。

また、幼稚園・保育所・認定こども園などの施設種別や公立・私立などの設置主体にかかわらず、保育者が意見交換や交流できる場を設け、互恵性のある関係を構築しながら、保育者相互が高め合っていけるよう、市と関係施設等が協働して取り組みます。

（３）乳幼児期だけでなく、就学以降も意識したサポート

乳幼児期は「遊び」を通して、生涯を通じて生きる力の基礎となる「根っこ」としての内面の力を身に付けていきますが、それが小学校や中学校などでの学習意欲にもつながり、生涯を通じた生きる力にもつながっていきます。連続した子どもの育ちを考えると、幼稚園・保育所・認定こども園などが、地域の小学校と連携した関係を構築していくことは非常に大切です。

そのため、西宮市内で、これまで実施してきた「つながり事業」を通じて、幼児期から児童期への接続期の発達の特性を理解し、互いの共通点や相違点について相互理解を深めるとともに、地域の小学校と幼稚園・保育所・認定こども園などとの連携を強化し、日頃から気軽に職員同士が意見や情報を交換し、加えて子どもが交流できる関係づくりをさらに進めます。

また、支援や配慮が必要な子どもに対しても、必要なサポートが切れ目なく受けられるよう、幼稚園・保育所・認定こども園などと小学校がより密接に連携、情報交換するとともに、それらを支援するため、こども未来センターや保健福祉センターなどが、専門的な視点からのサポートを進めます。

西宮市幼稚園・保育所・小学校連携推進事業で発行している「みやっこ『つながり』カリキュラム」※では、内面の力を下記の「3つの力」として整理。

生活する力	環境の変化に適応する力や自立して生活する力
かかわる力	様々な人と関わり合いながら自己を発揮し、共に生活を作り出す力
学 ぶ 力	身近な環境に興味や関心をもち、自ら考えてかかわる力

(みやっこ「つながり」カリキュラム 2015)

※ 幼児期から児童期への滑らかな接続を図るため、教職員向けに作成された接続期におけるカリキュラム。

(4) 保護者支援と地域に根差した取り組みの推進

子どもの健やかな成長には、保育者と保護者が連携して子どもを支える視点からの保護者支援や、地域での取り組みも大切です。幼稚園・保育所・認定こども園などは、幼児教育・保育に関する専門性を活かした地域における子育て支援を担う施設として重要な役割が期待されています。

このため、各施設は、園庭開放、体験保育や一時預かり事業、あるいは子育てひろば事業など、その環境・資源と専門性を活かした取り組みを積極的に進めます。また、保護者に寄り添い、家庭や地域でも子育てを前向きに捉えてもらえるよう、保育者が保護者とのコミュニケーションや、ドキュメンテーションを通じた情報提供などに取り組みます。

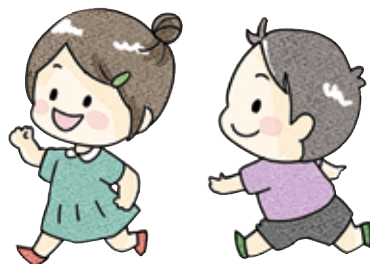
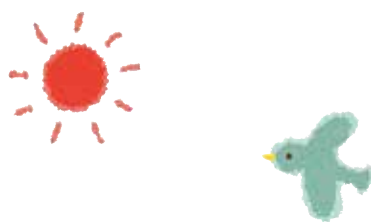
併せて、各施設は、地域行事への参加・交流を積極的に行い、地域に根差した存在となるよう取り組みます。

おわりに

このビジョン策定にあたっては、西宮市で幼児教育・保育に関わる関係団体から、『幼稚園、保育所、認定こども園などの施設種別や公立・私立などの設置主体を超えて、西宮の幼児教育・保育で大切にしたいことや、共通の思いをつくりたい』と、市に呼び掛けられたことをきっかけに、ワーキングチームを設置して検討・協議をはじめました。

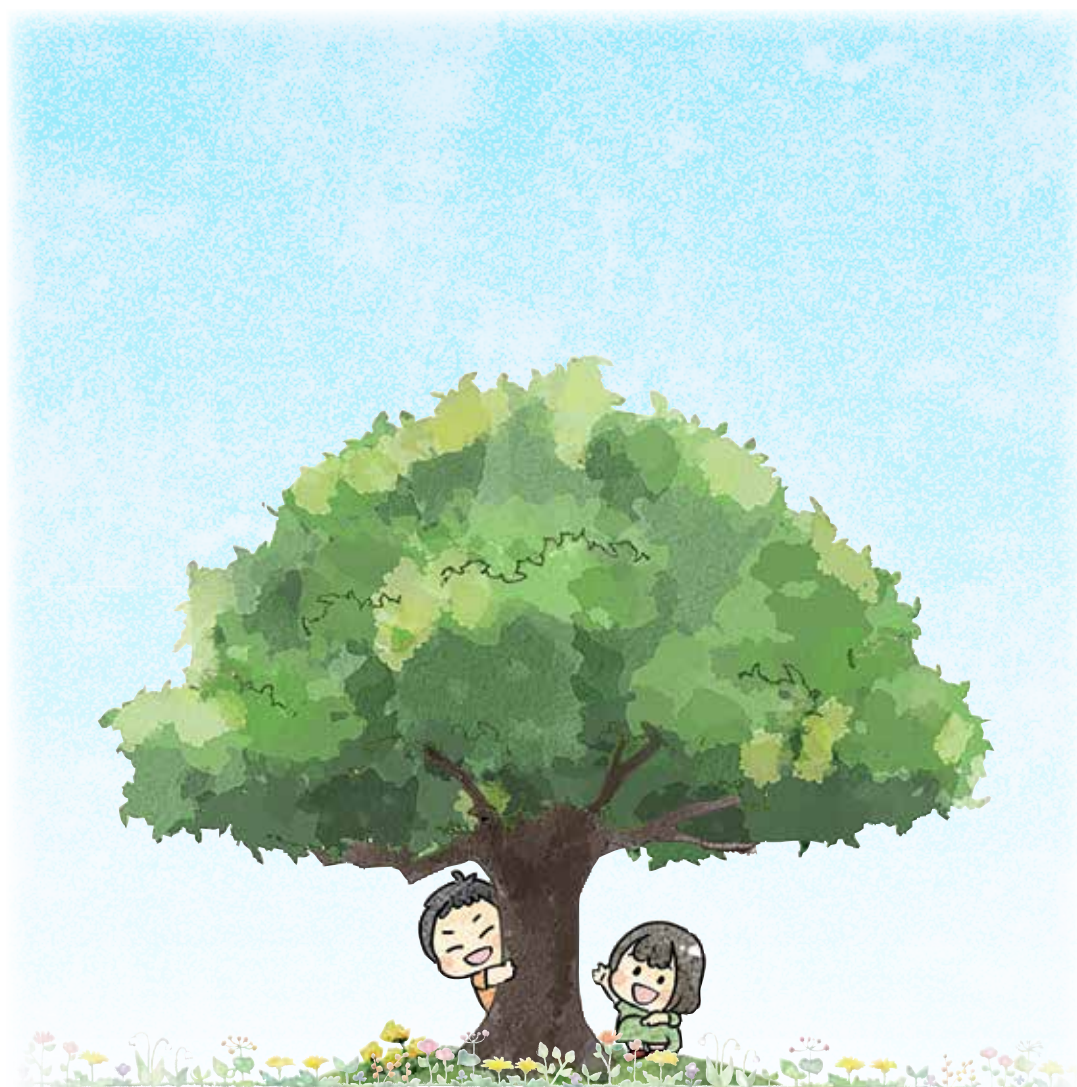
ワーキングチームでは様々な議論や熱のこもった意見交換がされましたが、委員それぞれの立場は違っても、皆「子どもたちの豊かな未来のために」という共通の思いを持ちながら、新たな発見も含めて、充実した検討・協議を重ねてきました。

このビジョンの策定が、市内で幼児教育・保育に関わるすべての関係者の学びを深める出発点になるとともに、未来を担う子どもたちの健やかな育ちに向けて、幼稚園・保育所・認定こども園などと保育者が、質の高い幼児教育・保育を目指して、これまで以上に、互いに高め合い、保護者や地域の方々との交流・つながりを大切にしていけるよう、取り組んでいしましょう。



MEMO





西宮市幼児教育・保育ビジョン

発行：西宮市 2022年8月

〒662-8567

西宮市六湛寺町10番3号

TEL：0798-35-3151（代表）

イラスト／橘 みえこ ©